

まるやま  
丸山A遺跡

**所在地** 豊田市下山代町丸山  
(北緯 35 度 1 分 31 秒  
東経 137 度 19 分 39 秒)

**調査理由** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地  
造成事業

**調査期間** 平成 25 年 11～12 月

**調査面積** 1,350 m<sup>2</sup>

**担当者** 成瀬友弘・米満武

**調査経過** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

**立地と環境** 丸山A遺跡は豊田市南東部の下山代町に所在する。この地域は東側を国道 301 号線に沿って流れる郡界川の南側、豊田市と岡崎市の境界にあたり、標高は 450～460m 前後の尾根状地形で、現在は主に杉を植林された山林である。谷を挟んだ反対側斜面に孫石遺跡がある。

**調査の概要** 調査の結果、縄文、古代、近代の遺物・遺構を検出したが、主要な時代は古代である。

縄文時代の遺物はスクレイパーと石鏃が包含層から出土したが、遺構は検出できなかった。

古代の遺構は調査区北側の斜面中部で 2 基検出された。058SX は石の配置状況から人為的に配石された可能性が高いが、詳細は不明である。070SI は 058SX から少し斜面を下った小規模な平場で検出された。070SI の北西側の床面からピットを 2 つ検出した。また、070SI の床面東側隅から被熱した石と焼土からなるカマド跡 050SL を検出した。遺物は 050SL 付近から、複数の土師質の甕の破片と灰釉陶器が出土した。灰釉陶器には黒色の付着物がついていた。北西角付近から底部外面に「春」と墨書が施された灰釉陶器が出土した。さらに南北トレンチ③からも、底部外面に「春」と墨書が施された灰釉陶器が出土した。後にこの墨書土器の出土場所を確認すると、070SI の西床面とほぼ重なった。この南北トレンチ③で出土した墨書土器は 070SI からの出土と考えられる。またこの 2 つの墨書土器の筆跡は違っており、別人が書いたと考えられる。

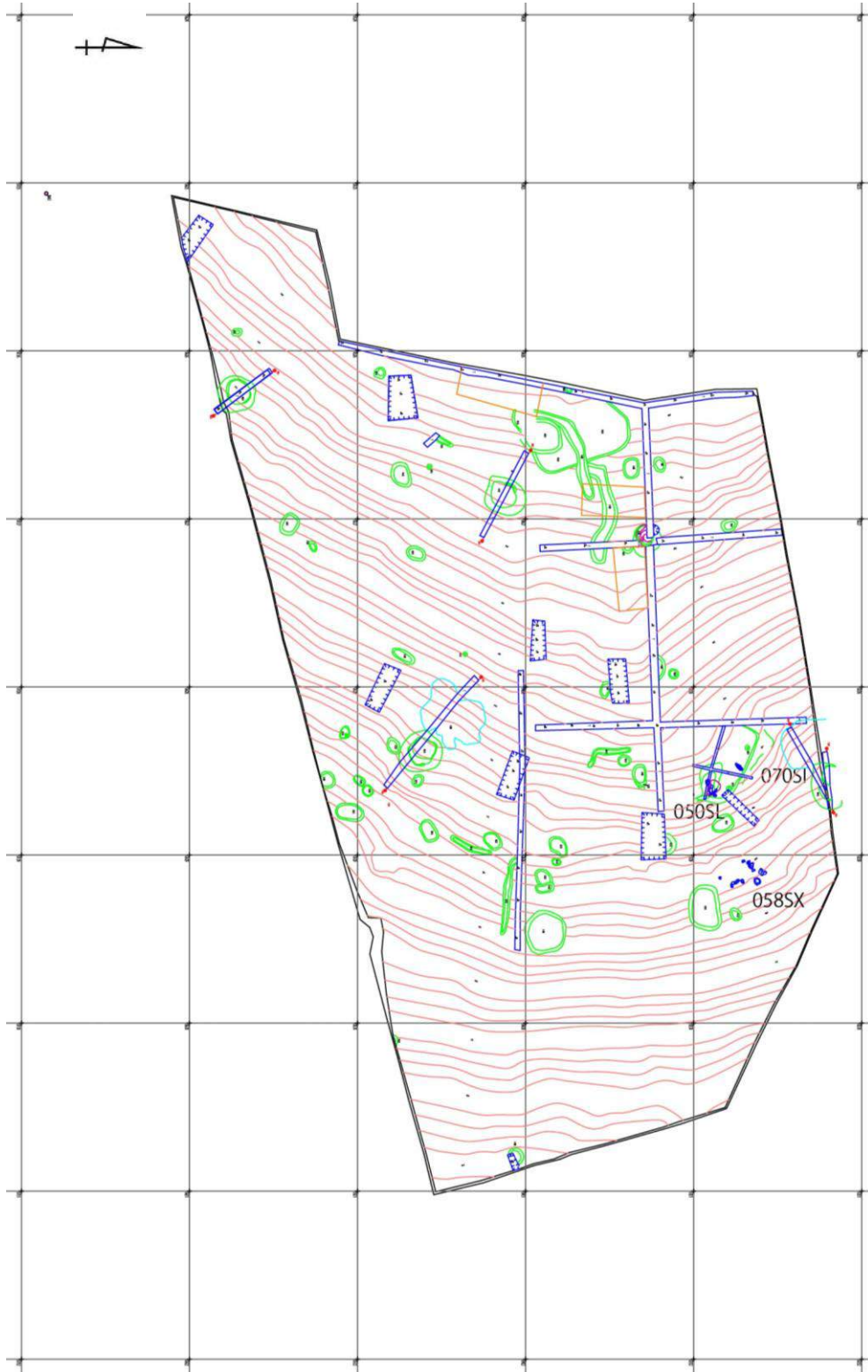
近代以降の遺構は伏焼きの炭焼き窯を計 8 基検出した。遺物は出土しなかったが、一度炭焼き窯として使用した跡に再び作り直された跡がある窯 (002SK・005SK, 004SK・006SK) を検出した。

**まとめ** 今回の調査で古代以前の遺構は確認することができなかった。しかし包含層の中からスクレイパーや石鏃など少数であるが縄文の遺物が出土した。このことは丸山 A 遺跡周辺は古代以前より人々の生活の場になっていたことを示唆している。古代の遺構はカマド跡を伴う竪穴建物跡などが検出された。竪穴建物周辺から多くの遺物が出土した。遺物の出土量から丸山 A 遺跡で人々が最も活動的だったのは古代であったと考えられる。そしてこの遺跡を特徴づけるのは、筆跡の違う「春」と墨書が施された灰釉陶器が同じ竪穴建物から 2 点出土したことである。これは文字が書ける人が 2 人以上この周辺で活動していたことをあらわしている。墨書土器の出土は、昨年度の柿根田遺跡や今年度のトヨガ下遺跡でも出土している。当時の山間地に知識人がどのように関わっていたか、今後の研究の進展が期待される。

(米満 武)



丸山遺跡調査区 1 : 1000



丸山遺跡遺構平面図 (1 : 400)



遺跡全景（東より）



002SK 完掘状況（西より）



058SX 検出状況（北より）



070SI 完掘状況（西より）



050SL 検出状況（西より）



070SI 灰釉陶器出土状況



南北トレンチ墨書土器 出土状況



墨南北トレンチ出土墨書土器拡大



070S I 出土墨書土器



070S I 出土墨書土器拡大